

懸念事項（環境負荷等）への検討結果

①放水路への津波遡上（どのルートでも同様の状況が想定）

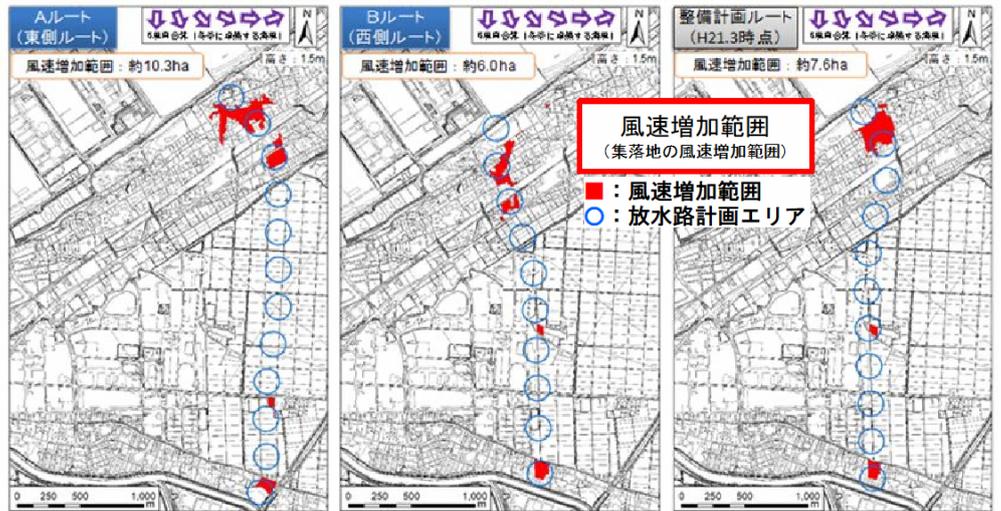
施設計画の対象となるL1津波※では、地震による液状化により放水路の堤防が沈下した場合でも、浸水被害が発生しません。

※ L1津波とは、数十年から百数十年に1度程度の確率で発生する地震を想定

②開削による 海風の影響

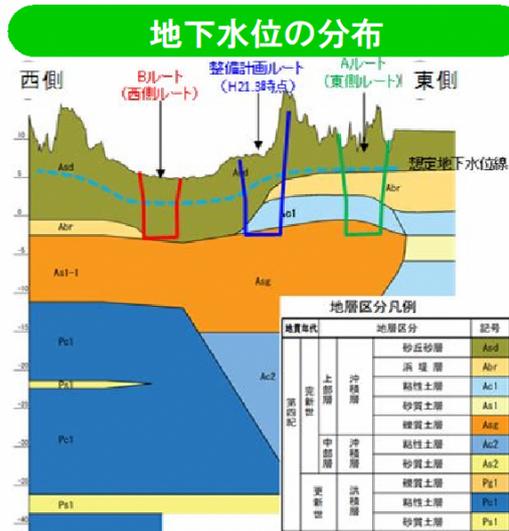
放水路整備により風速が現在よりも強くなる集落地の面積は、Bルート(西側ルート)が一番小さくなります。

※放水路整備後の風速が現在よりも3割以上増加する範囲を風速増加範囲としています。
※放水路の川幅を100mと想定して解析しています。

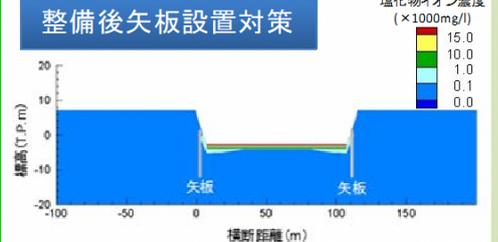


③海水の浸入による 地下水への影響

放水路整備による地下水への影響は、地下水位が高い方が大きくなります。Bルート(西側ルート)が一番地下水位が低いため、放水路整備の影響が一番小さいと見込まれます。



塩水浸透予測



地下水への海水の浸入は、開削法面を矢板等で遮水することで基本的に防げます。

※河口部から200m程度の砂丘部の計算結果になります。また、放水路の川幅を100mと想定して解析しています。

④海岸への影響（どのルートでも同様の状況が想定）

数値シミュレーションにより解析した結果、海域の濁りや堆積土砂への影響は小さいことを確認しています。

～ご意見をお聞かせください～

今後、住民のみなさまのご意見をお聞きし、保倉川放水路の検討に活かしていきます。たくさんのご意見をお聞かせください。

(期限：令和3年3月28日)

～ご意見の提出方法は次の方法があります～

- ◆ 意見用紙に記入して提出（郵送、FAX）
- ◆ HP意見フォームから提出

<https://www.hrr.mlit.go.jp/takada/hokuragawahousuiro/goiken.html>

第20回 関川流域委員会

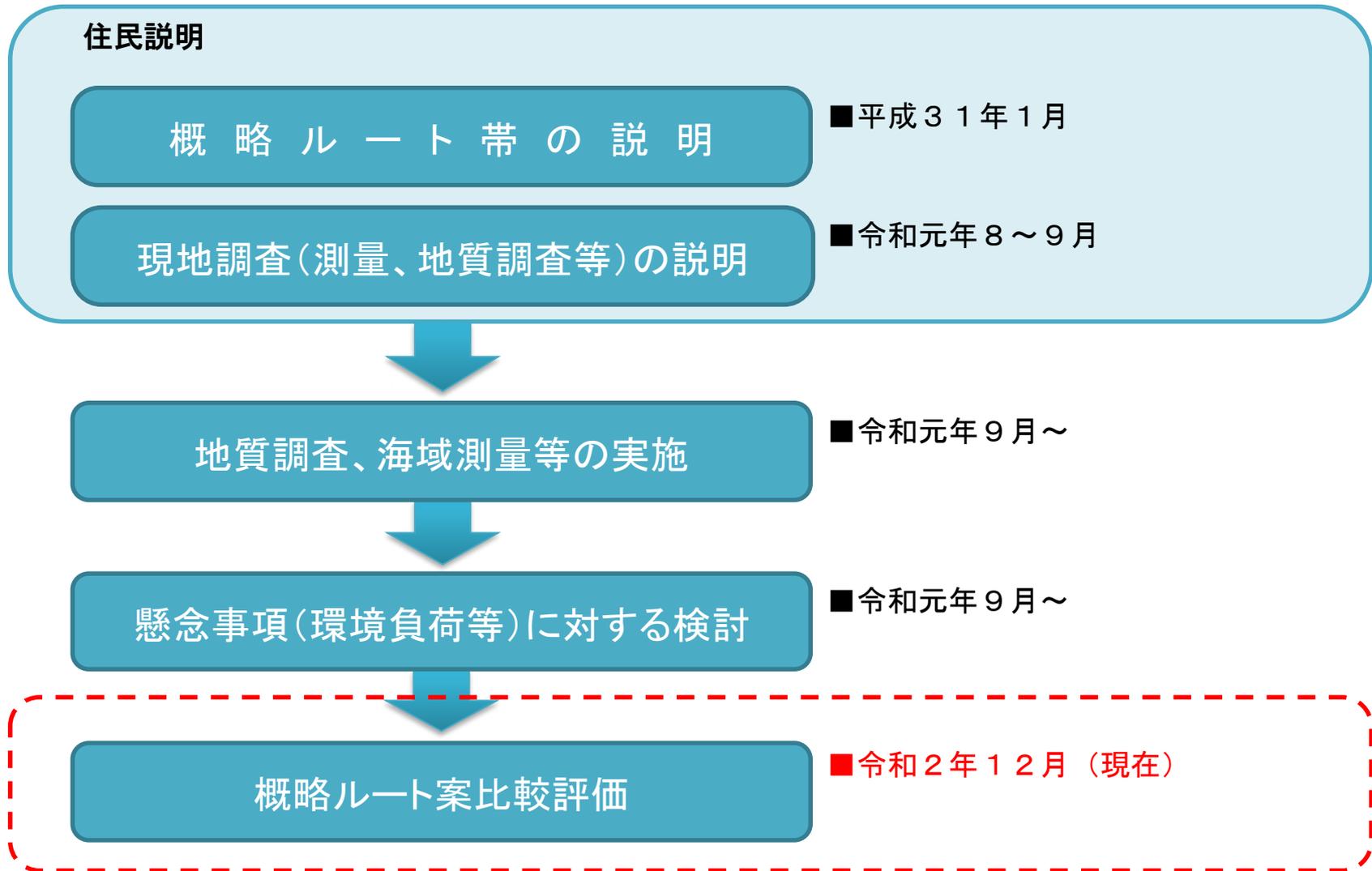
概略ルート案について

令和2年12月

北陸地方整備局 高田河川国道事務所

1. 現在の検討段階
2. 現地調査結果
3. 概略ルート案の設定
4. 懸念事項への対応状況
5. 概略ルート案の比較評価

1. 現在の検討段階

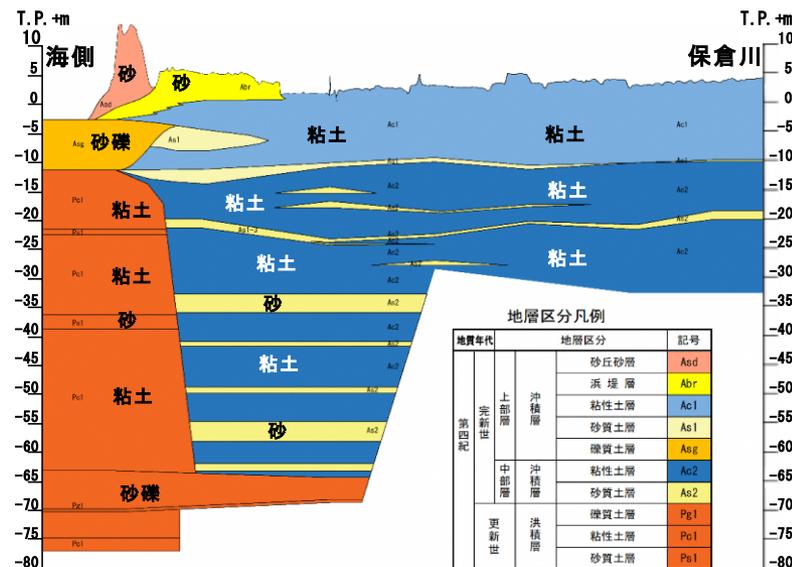


2. 現地調査結果（地質断面図）

- 保倉川放水路事業に関する地質調査・地下水調査は、地域の地質状況、地下水状況の把握、事業計画検討に必要な情報を得ることを目的に実施している。
- 令和元年度のボーリング調査より、地下水位分布と地層分布が想定できた。



地質調査位置図



地質想定断面図

地質概要イメージ

概略ルート沿いの断面を考えると、右図イメージとなる。
 「①粘性土」は圧縮性が大きいことが分かり、そのため放水路施工時に沈下が予想され、何かしらの対策が必要となる。
 「⑥軟弱粘性土」は、軟弱であるため、こちらも対策が必要となる。

